

別紙様式

平成30年度 宇部市立琴芝小学校 学校評価書 校長(藤川 信利)

1 学校教育目標

教育目標 …… 挑戦し、未来を拓く「琴芝っ子」の育成
中・長期目標 …… ○ コミュニティ・スクール(CS)を生かした「地域とともにある学校づくり」の推進
○ すべての児童の豊かな心と健やかな体を育む「誰もが安心できる教育環境づくり」の推進
○ すべての児童の学力を向上的に変容させる「主体的、対話的で深い学び」の推進
○ つながる幼保小中連携を実践し、児童のよさや可能性を伸ばす「開発的な生徒指導」の推進

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

①児童
平成29年度は、学校全体としてさらに落ち着きを増し、具体的な行動目標であるチャレンジ目標の実現に向けて取り組むことができた。安心づくりアンケートでも成果が現れてきている。生活面では家庭や地域と連携して小中合同のノーメディアデーを設定し取り組んできたが、元気創造アンケートを見ても、約束を守れないという児童が多い。この点は引き続き課題として取組を強化したい。また、生徒指導面で重点的配慮を要する児童がおり、全校体制で支援しているところである。
学力については、R-PDCAを4サイクルでマネジメントし、全国学力・学習状況調査や学力定着状況確認問題等を中心に学力や学習状況を把握し、学年に応じた課題に取り組み、成果を上げつつある。県平均を下回り課題の見られた教科や観点もあるが、各設問の分析をしっかりと行い、具体的な方策を定め、引き続き課題解決に取り組んでいるところである。
児童の学級における生活満足度については、児童が感じている学級における承認度と受容度とから、個々の児童が学級生活にどの程度満足しているのかを客観的に測定すべく、平成23年度から学級安心バロメーターチェックを実施している。学級生活不満足群の児童が減少し、毎年着実に改善され、学級内では安定して生活が送れていることが伺える。今年度は、Q-Uを活用し、児童や学級の実態を把握し指導に生かしていく予定である。

②保護者
これまでの各種アンケートや調査から、学校運営に協力的で信頼度が高いという結果が出ている。これは、各学年において落ち着いた学校生活が展開されている成果であり、コミュニティ・スクール推進部会を中心にPTAとの連携を進めた成果だと考えられる。
「落ち着いたよい学校だと思う」や「先生の指導力は高いと思う」、「着実に改善が進んでいる」等、肯定的な意見が増えている。

③地域
琴芝地区はコミュニティ推進協議会を中心に、しっかりとした組織を有している。教育経験豊富な人材が多く、地域の教育力が高く、学校教育に大変協力的である。地域の安全づくり連絡協議会をはじめ各種関係団体が「地域の子どもは地域で育てる」を目標とし、子どもたちの健全育成に向けて積極的に手堅い活動を行っている。さらには、「放課後子ども教室」や「夏休みわくわく教室」など、家庭教育を地域が側面から支援する体制がしっかりと機能している。
地域とともにある学校づくりでは、地域コミュニティと連携したコミュニティ・スクール推進部会を設置し、学校運営に参画していただいている。今後も地域の教育力を生かし、地域とともにある学校づくりを推進していきたい。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

(1) コミュニティ・スクール(CS)
○ 地域コミュニティを中心に、学校・家庭・地域の連携意識を高め、『琴芝っ子育成計画』に沿った実践を通して、すべての児童の健全な成長を支援していく。

(2) 学習指導
○ 『琴芝っ子学力向上計画』に沿った実践を通して、児童の学力を保障する授業時間確保の徹底と、すべての児童の特性に応じた学力向上をめざす。
○ 『琴芝っ子授業改善計画』に沿った実践を通して、つながる授業の三視点(①児童と児童 ②児童と教材 ③児童と教師)を意識しながら、「楽しく分かる授業」への向上的な変容を図る。

(3) 生徒指導
○ 『琴芝っ子安心づくり計画』に沿った実践を通して、相手の話にしっかりと耳を傾け、互いに関わり合いながら、すべての児童が安心して学習や生活ができる落ち着いた学級・学校をつくる。

(4) 元気創造
○ 『琴芝っ子元気創造計画』に沿った実践を通して、心身ともに元気で健やかな児童を育成する。

(5) 特別支援教育
○ すべての児童の個性や特性を認め、合理的配慮を念頭に、児童・保護者・担任が繋がり合いながら、交流等を通じてみんながみんなで伸びる教育活動を推進する。

(6) 業務改善
○ 児童と教職員がじっくりと向き合える時間を保障し、すべての児童に安心と安全を提供するために、業務内容のスクラップとスリム化を速やかに実施する。
・分掌組織の効率的運用による円滑な業務遂行 ・年間を通した学校行事等の見直し
・確かな学力の育成を基盤に据えた教科担任制等による、児童及び教員の負担軽減策の実行
・効率的な会議の運営による時間外勤務の10%縮減 ・カリキュラムの弾力的な運用促進
・週時程の見直しと実効性のあるスケジュールマネジメント機能の円滑化

4 自己評価						5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導	【学力向上】 ○「活用力」「表現力」の伸長による基礎学力の定着 ○基礎的学習内容の定着 ○家庭学習習慣の確立 ○読書習慣の形成	○やまぐち学習支援プログラムの活用 ・学年別カリキュラムへの位置付け ・KCタイム(朝学)、授業、全校体制による土日宿題の取組 ・保護者・地域と連携したサマースクールの実施 ・ブログへのリンク貼付 ○考えを書く指導の充実 ・授業において、めあてに対するふりかえりを書く習慣付け ・TT及び教科担任指導の充実 ○「家庭学習の手引き」改訂と実施 ・保護者・地域との連携による家庭学習(自主学習)の強化 ○「読書通帳」、読み聞かせ、「読書週間」における読書推進活動の継続	○「学習の約束」達成状況の把握 →強化月間調査95%以上の達成 ○全国学力・学習状況調査 ○学力定着状況確認問題(年2回) ○やまぐち学習支援プログラム学期末問題 →県を100とした場合、それよりも5ポイントup ○親子で家庭学習への取組 家庭70%以上 ○図書館貸し出し冊数 →年間1人20冊以上	3	○授業に取り組むための道具の準備や心構えに重点を置いた指導を継続している。どの学級も落ち着いた雰囲気の中で学習が進められており、今後も継続して指導することが大切である。 ○全国学力・学習状況調査、確認問題、学期末問題の結果については、学年によりばらつきがあるが、ほとんどの学年で県平均点を上回るか同程度の状況であった。特に、国語科の伸びが著しい。考えを書く指導の充実が図られている。基礎的・基本的な内容の定着を図るとともにやまぐち学習支援プログラムを活用するなどして、子どもたちの学力向上に向けて取り組んでいる。 ○家庭学習の取組については、89%の児童が進んで最後まで取り組んでいると回答しているが、家庭学習の手引を活用しているかどうかについては、保護者の回答が28%であった。「家庭学習の手引」の見直しが課題である。 ○読書への働きかけを行っているが、読書への関心は二極化である。また、家庭で読書をよくしていると回答した保護者は51%であるため、家庭との連携も工夫して行う必要がある。	○教職員の評価を見る限り、秀である。	3
	【授業改善】 ○研究主題「聴き合い学び合う児童の育成～つながる授業づくりを通して～」 ○つながる授業の三視点の設定 ①児童と児童 ②児童と教材 ③児童と教師	○「学び合い(協同的な学び)」のある授業の構想 ・授業デザイン ・授業改善の推進 ・お互いの考えや思いに寄り添い、聴き合う関係づくり ○学びを中心とする授業デザインと授業実践 ・具体的な児童の育ち・つながる授業の三視点に対する手立ての設定 ○授業評価に基づく授業改善 ○授業の実際から学び、省察・改善に連関する授業評価 ・課題の明確化と改善策の検討	○児童による「授業満足度」評価 ○授業者による授業の考察 ○参観者による授業評価 ○児童の学びの実際からの省察 ・学習ノート・ワークシート等 ・授業記録ビデオ・写真 ○研究協議会における授業の省察 ○授業アンケート調査(前・後期) ・教師による授業づくりチェック ・児童による学習チェック ○地域の方による授業参観と評価	3	○全校研究授業、ユニット型研究授業、特別支援学級研究授業により、すべての教師が授業提案を行う研修を通して、活発な授業改善が進められている。充実したICT機器を効果的に活用する研修を全教職員で日々積極的に取り組んでおり、琴芝小ならではの授業改善が進められているところである。外部から訪問者も多いことから本校の取組が高い関心を集めている。 ○保護者、地域に対して、参観日以外にも授業研究会等への参観を呼びかけている。、多くの方の参観をいただくことで、さらなる授業改善がなされ、子どもたちの力を伸ばすことができると考える。今後も積極的に取り組んでいく。 ○保護者によると、「授業が楽しく分かりやすいと家庭で話している」の肯定的な回答が77%であり、増加傾向である。児童や教職員のアンケートからも、進んで考えたり、説明したり、友達の考えをよく聞いたりした主体的で対話的な授業が進められていると言える。今の取組を継続しながら、さらに、主体的、対話的で深い学びを求めて、今後も研究に励んでいく。	○授業を工夫している	3
生徒指導	○「笑顔の学校宣言」の実現 ○全校体制による好ましいルール感覚の醸成 ○基本的生活習慣の徹底	○「琴芝小学校笑顔の学校宣言」の徹底 ○気持ちのよい挨拶や感謝の気持ちを伝える指導 ○校内の挨拶運動と地域との連携による挨拶の励行 ○共感的児童理解と望ましい言葉づかいの指導 ○「学校生活のやくそく」「校外生活のやくそく」の継続的確認と繰り返し指導 ○身の回りの整理整頓を徹底 ○養護教諭との連携 保健室情報の共有 ○履き物の整頓や名札の着用等を通した心を揃える指導 ○各委員会活動との連携	○学級安心バロメーターチェック(学期1回) 満足群 85%以上、不満足群5%以下をめざす ○進んであいさつをする 児童95%以上、地域70%以上、家庭90%以上 ○掃除を黙って一生懸命している 児童95%以上	2	○あいさつの状況については、児童92%、保護者80%、地域53%という結果であった。児童は、あいさつの場所が「学校」では92%、「地域」では84%と、どこでもすすんであいさつしていると自覚しているようである。地域でのあいさつが改善してきているという声も聞かれるが、まわりの人や地域の方々を意識したよりよいあいさつについて考え、指導する必要がある。 ○「地域でルールを守って遊ぶこと」や「地域行事への参加態度」「時と場に応じた言葉づかいや温かい言葉づかい」の項目について、これまでと変化ないようであるが、生活する上で大切なことである。今後も継続して調査、改善に取り組む。 ○「人の話をきちんと最後まで聞く」ことが改善されると、落ち着いて学習することができるようになっている。学校だけでなくあらゆる場でできるようになるよう一体となって取り組むことが大切である。	○あいさつなどの基本的生活習慣が徹底している。 ●言葉遣いの悪さに、時おり驚きを感じる。何気ないことであるが、気になる。	3
地域連携	○学校、家庭、地域の三者が協働で取り組む「琴芝っ子育成計画」に沿った実践を通して、人と関わり、愛される琴芝っ子を育成する。	○コミュニティ・スクール(CS)推進部会(絆、学び、心と体)の具体的な活動計画の実行によるコミスク体制の定着 ○上宇部中校区拡大大学校運営協議会を開催し、中学校区としての活動を模索する。	○コミュニティ・スクールの認知度を、保護者75%、地域60%をめざす。 ○学校支援活動、地域貢献活動を年間10回以上開催する。 ○地域行事に協力、参加する80%以上 地域住民が、学校行事に積極的に参加している70%以上	2	○コミュニティ・スクールの認知度は、保護者66%、地域54%、来年度も目標値を設定して取り組んでいきたい。引き続き、学校だより等で積極的に発信しコミュニティ・スクールについての理解を高めていけるよう取り組む。 ○地域の方の学校行事の参加への意識の低下を防いでいくことが大切である。学校の地域行事への協力についての肯定的な回答が88%と向上が見られる。しかし、「学校に訪れることには抵抗を感じる」地域の方の回答が37%であり、学校の敷居を下げる一層の工夫を図っていく必要がある。 ○学校運営協議会の構成について、教職員の参画を一層進める等の見直しも進めていく必要がある。	○地域住民が積極的に参加できる工夫が必要である。 ●地域の行事に参加が少ない傾向がある。 ●CSの活動を実行するだけでなく、地域の方々がどのようにすれば参加したくなるかについても考える必要があると思う。 ●保護者にもっと関心をもってほしい。	2

特別支援教育	○支援を必要とする児童への合理的配慮の充実を図り、児童、保護者、担任が安心できる場づくりを図る ・インクルーシブ教育の理解推進 ・校内委員会の内容の充実と校内体制の強化 ・家庭・地域・専門家との効果的な連携	○担任との連携を密にして、問題が顕在化・潜在化している児童の早期発見と実態把握 ○支援方法についての研修や情報提供 ○情報の共有や連携により、役割分担を明確にした効果的な支援の実施	○特別支援関連研修を年3回以上実施する。	3	○校内委員会を通して、各学年で困り感をもった児童の把握と情報共有、具体的な支援について協議し、同一步調での指導に当たることができている。引き続き、一層の共通理解と、個を大切にした教育活動の充実を図っていく必要がある。 ○教職員アンケート「全教職員が特別な支援を必要とする児童の理解を深め、指導・支援に連携して取り組んでいる。」の肯定的な回答は95%である。研修により、特別支援教育の充実を図ることもできた。	A: 2人(優れている) B: 7人(よい) C: 0人(おおむねよい) D: 0人(要改善) ○日々、大変のご苦労、努力されていることに感謝している。個々の児童に向き合うことの大変さを実感している。	3
元気創造	【メディア】 ○正しいメディアとの接し方 【食育】 ○「食べカ」の伸長 【体育】 ○多様な運動への挑戦 【読書】 ○本に親しむ子どもの育成	【メディア】 ○正しいメディアとの接し方 ・Noメディアデー 【食育】 ○「食べカ」の伸長 ・朝食コンテスト ・もりもり朝ごはん週間 【体育】 ○「琴芝アスレチック」の実施 ・強化週間の設定（年2回体育委員会活動） 【読書】 ○図書館活用の促進 ・KCタイムを活用した朝の読書 ・読書の時間を活用した授業での活用の促進 ・図書館支援員・読み聞かせボランティアとの連携	○Noメディア調査(年2回)実施者100%を維持。 ○朝食調査、残量調査(年2回)朝食を毎朝摂取している児童100%をめざす。 ○体力調査柔軟性の項目を県平均よりup ○図書館貸し出し冊数→年間1人20冊以上	2	○「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は88%、「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」と回答した保護者は85%である。メディアへの接し方については、家庭で約束をつくり、守っていることも継続されている。 ○朝食の摂食状況は昨年度までと同程度の結果となっているが、100%を目指して保護者への啓発を続けていく。また、早寝早起きができていると回答した保護者が49%と低く、児童の回答が74%であることを鑑みても生活習慣に関する啓発が必要である。成長期の子どもにとってなぜ必要なかを理解させ、自発的に生活習慣を整えることができるよう家庭と連携を取ることが大切である。 ○外遊びや運動に関する設問についてもこれまでと同程度の結果であるが、体力調査の結果は、反復横とび以外は全国平均を下回っている。中でも、握力、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げは大きく下回っている。学校では、体育委員会を中心とした運動の奨励を行っているが、地域とともに抜本的な取組も考えていくとよい。	A: 1人(優れている) B: 6人(よい) C: 1人(おおむねよい) D: 1人(要改善) ●学校アンケートで早寝早起きができている人が多いとあった。健康にも関わることなので、睡眠時間を確保することの重要性について、保護者や児童に伝える(教える)機会があるとよい。 ●体力向上をめざした取組を強化するとよい。 ●早寝早起き、運動目標に本腰を入れるとよい。	2

業務改善	学校の組織等					A: 2人(優れている) B: 5人(よい) C: 1人(おおむねよい) D: 0人(要改善) ●「会議の効率的な運営」の85%は気になる数値である。雰囲気もあるのではないかな。	3
	教科担任制等による児童及び教員の負担軽減策の実行	○各種会議の開始時刻・終了時刻の厳守 ○各種校内委員会開催曜日の固定化	○職員会議・その他諸会議は、効率的な運営がなされている95%以上	3	○各委員会の開催回数の精選、職員会議の提案内容の焦点化、会議時間原則1時間等の取組を通して、効率的に取り組んだ。教職員アンケートにおいては、「職員会議・その他諸会議は、効率的な運営がなされている。」の肯定的な回答が前期94%、後期85%である。行事の精選や各種委員会開催回数の削減等、一層の業務の見直しと改善を進めていく。		
	日常的な業務						
	分掌組織の効率的運用による円滑な業務遂行	○各主任を中心とした組織で取り組む体制づくりの推進による協働体制の強化・充実	○業務時間外業務時間調査、40時間／人以下をめざす。	3	○超過勤務時間の月半ばでの個別の通知、効率的な業務の進め方についての話し合い、生活時程の見直しによる放課後の時間の確保等を通して、業務時間外時間の短縮に取り組んだ。4月から1月までの一人当たりの平均時間外業務時間が34.4時間となり、昨年度の36.4時間から短縮され、目標を達成している。		
	勤務状況						
	週時程の見直しと実効性のあるスケジュールマネジメント機能の円滑化	○勤務割り振りを変更する場合の周知徹底及び勤務実態の把握と適切な管理	○年休取得日数、15日／人以上をめざす。 ○必要な時には、年休等が取りやすく、働きやすい職場である。100%	3	○「必要な時には、年休等が取りやすく働きやすい職場である。」の肯定的な回答が後期95%である。 ○1月から12月の年休日数の平均は、13.2日であり、昨年度の11.9日に比べ、増加している。引き続き、15日／1人以上を目指す。		

6	学校評価総括(取組の成果と課題)
<p>本年度、「琴芝っ子学力向上計画」「琴芝っ子授業改善計画」「琴芝っ子学校安心づくり計画」「琴芝っ子元気創造計画」に基づいた複数回のR-PDCAサイクルを機能させながら、教育活動を進めてきた。学校関係者からの御意見では、「総じて改善、改良傾向が見られる」「児童が楽しく学校へ行くことができていのはとても良いことである」「しっかりと学校経営をしている」との言葉をいただいている。反面、地域連携や元気創造に関しては改善点も明らかになっている。</p> <p>学力向上・授業改善に関しては、教師の意識の高まりが見られる。個への支援にも充実を図ってきた。特に、授業改善においては、ICT機器を活用した特色ある学校づくりと関連させ、効果が見られる。また、出前授業やボランティアの方との学習にも積極的に取り組んできた。今後も、継続して、考えの交流や学び合いを基盤とし、楽しく分かりやすい授業づくりに取り組みたい。</p> <p>学校生活や家庭・地域生活についての児童の自己認識と大人の認識のズレについては、数年来の課題となっている。効果的な指導方法を見出せていないことから具体的なモデルの提示や学校組織全体での取組の強化等を行っていく必要がある。特に、早寝早起きなどの生活習慣やあいさつ、体力づくりは、地域や家庭と連携しながらポイントをしぼった取組が必要である。</p> <p>コミュニティ・スクールを基盤とする地域とともにある学校づくりの推進については、本年度も全教職員が参加して推進部会を開催し、地域の方々と成果や課題を共有することができた。今後も教職員の参画を進めたり、学校運営協議会への教諭の位置付けを進めたりして、実効性のある仕組みづくりが必要である。また、地域連携プランの作成を通して、中学校区全体との繋がりを明確にし、児童の健全育成のためのやりがいのある「やまぐち型地域連携教育」を進めていきたい。</p> <p>今年度から取り組んでいる「漢字検定」は、コミュニティ・スクール「知の部会」の活動として始めたものであり、地域と学校が連携した児童の学力向上を目指す取組である。地域の方がたいへん協力的で、様々な学校支援がさかんに行われている琴芝地域である。今後、地域の方が気軽に来校できる学校環境づくりに取り組み、さらに本校の教育活動を充実させていきたい。</p> <p>業務改善については、昨年度の数値を上回る、超過勤務時間の削減を実現した。働く環境の一層の改善と、教職員の人材育成に力を入れる。</p>	

7	次年度への改善策
<p>(1) 学習指導</p> <p>①親子で取り組む家庭学習の具体的な提案やKCタイム(朝学)の取組の充実を通して、基礎基本の定着を図る。</p> <p>②ICT機器の利活用の研究を進め、より一層の授業改善をめざす。</p> <p>③地域人材等の外部人材の一層の参画を図り、学校に対する多様なニーズを反映した授業づくりを進める。</p> <p>(2) 生徒指導</p> <p>①「お先にあいさつ」や「相手のことを考えた言葉遣い」を目指して、求められる姿を具体的に提示することで、目標達成を図る。</p> <p>②自己有用感が高まる働きかけを教職員が研修し、向上をめざす。</p> <p>③義務教育9年間の成長を見据えた指導計画を基に、学校組織全体で取組を進め、より良い自己実現を図る。</p> <p>(3) 地域連携</p> <p>①学校運営協議会に推進部会のチーフ教諭を位置付け、地域連携に携わる教職員を増やすことで、教職員の一層の参画意識を高める。</p> <p>②児童・保護者・地域への情報発信を継続し、コミュニティ・スクールの認知度と地域行事への参加意識をさらに高める。</p> <p>(4) 特別支援教育</p> <p>通常学級に在籍する支援を要する児童について、指導計画の見直しと支援の共有を通して、一人一人が安心して学校生活を送ることのできる支援体制の充実を図る。</p> <p>(5) 元気創造</p> <p>①体育科の授業での体力向上のための運動メニューや、中間時間・昼休みに取り組める遊びのメニュー等、運動習慣づくりのための具体的な実態を全校で取り組む。</p> <p>②早寝早起き等の生活習慣の実態を継続して把握し、家庭と連携して改善を図る。</p> <p>(6) 事務の共同実施</p> <p>「宇部市立小中学校文書取扱要綱」と校内の文書管理の整合性を図り、文書の集中管理体制の充実を図る。</p> <p>(7) 業務改善</p> <p>① 児童下校後の業務時間の確保のため、行事、校内組織・会議の再編及び見直しを行い、業務の効率化を図る。</p> <p>② 超過勤務時間の目標設定を行い、目標達成のための教職員の主体的な取組をめざす。</p>	